

Japanese Utility Model No. 3086384

Issue Date: March 20, 2002

Filing Date: November 30, 2001

Application No: 2001-7822

Applicant: Daimei Shoji Kabushiki Kaisha

Title: Double-Sided Tape

ABSTRACT

The invention relates to a double-side tape that can be easily cut to a predetermined length.

The double-sided tape is composed of an adhesive tape body 1 having adhesive layers (not shown) in both surfaces thereof, and a release tape 2 attached to the adhesive layers. Also, the double-sided tape has cutting lines 3 formed as perforations that extends in a widthwise direction. The cutting lines 3 are formed in the double-sided tape at desired intervals. Each of the cutting lines 3 is composed of a first and second portions 3a and 3b that are respectively formed in the release tape 2 and the tape body 1. The first portion 3a is formed so as to penetrate the release tape 2. Conversely, the second portion 3b is formed so as to extend over 1-50% of a thickness of the tape body 1.

The double-sided tape thus constructed can be easily cut to a desired length by simply pulling the tape along the cutting lines 3.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3086384号
(U3086384)

(45) 発行日 平成14年 6 月14日 (2002. 6. 14)

(24) 登録日 平成14年 3 月20日 (2002. 3. 20)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

C 0 9 J 7/02

C 0 9 J 7/02

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2001-7822(U2001-7822)

(22) 出願日 平成13年11月30日 (2001. 11. 30)

(73) 実用新案権者 501463041

大明商事株式会社

東京都墨田区墨田 1-9-13

(72) 考案者 大口 義次

東京都墨田区墨田 1-9-13 大明商事株
式会社内

(74) 代理人 100066223

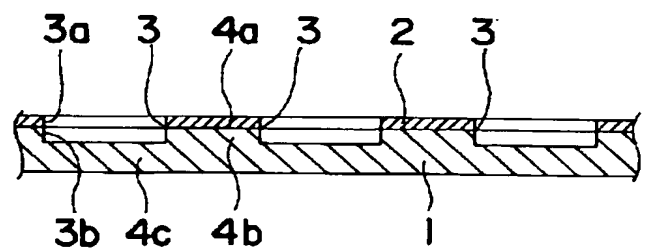
弁理士 中村 政美

(54) 【考案の名称】 両面テープ

(57) 【要約】

【課題】 略直線的で綺麗な破断状態が得られ、破断部分の貼着力や接着強度を損なう虞れが無く、任意の切込線部分で簡単に且つ確実に破断でき、切込線を簡単に設けられ、構成簡素で、製造し易く、量産に適し、低廉で、経済的で、確実な接着力を発揮できる両面テープを提供する。

【解決手段】 表裏両面が粘着可能な粘着テープ基体 1 と、粘着テープ基体 1 の表面に剥離可能に貼着する剥離テープ 2 とからなり、長手方向に沿って適宜間隔に配すると共に、幅方向に沿う略ミシン目状の切込線 3 を、剥離テープ 2 及び粘着テープ基体 1 の同位置に夫々設け、剥離テープ 2 に設ける切込線 3 a は、剥離テープ 2 を貫通し、粘着テープ基体 1 に設ける切込線 3 b は、剥離テープ 2 がわから粘着テープ基体 1 の厚みの 1 ~ 5 0 % 程度の深さとなるよう形成する。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 表裏両面が粘着可能な粘着テープ基体と、この粘着テープ基体の表面に剥離可能に貼着される剥離テープとからなる両面テープに於いて、長手方向に沿って適宜間隔に配されると共に、幅方向に沿うような略ミシン目状の切込線を、剥離テープ及び粘着テープ基体の同位置に夫々設け、剥離テープに設けられる切込線は、剥離テープを貫通するように形成し、粘着テープ基体に設けられる切込線は、剥離テープがわから粘着テープ基体の厚みの1～50％程度の深さとなるように形成したことを特徴とする両面テープ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の両面テープを例示する一部切欠斜視図である。

* 【図2】 本考案の両面テープを例示する長手方向に沿った部分断面図である。

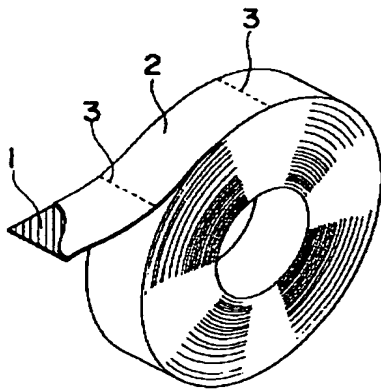
【図3】 本考案の両面テープを例示する幅方向に沿った部分断面図である。

【符号の説明】

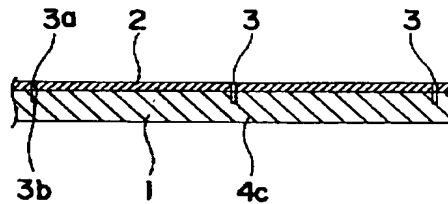
1	粘着テープ基体	2	剥離テープ
3	切込線	3 a	切込線
3 b	切込線		
4 a	切残部	4 b	切残部
4 c	切残部		

*

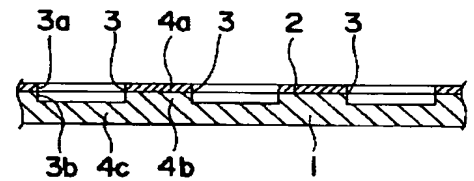
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、粘着テープの表面に剥離テープを剥離可能に貼着してある所謂両面テープであって、粘着テープ基体と剥離テープとに夫々設けた略ミシン目状の切込線部分を利用して、貼着力や接着強度等を損なうことなく、簡単に、確実に、且つ綺麗に破断でき、しかも、その構成がより簡素となるように工夫した両面テープに関するものである。

【0002】

【従来技術】

従来、この種の両面テープにあっては、種々のものが提案されており、例えば、実開昭63-140043号公報に掲載されているような切り込み入り両面テープや、実開平1-78149号公報に掲載されているようなミシン目入り両面テープや、実開平7-33956号公報に掲載されているようなミシン目入り両面粘着テープや、実用新案登録第3056335号公報に掲載されているような両面テープ等がある。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

ところが、前述の如き切り込み入り両面テープにあっては、剥離紙にはミシン目状の切り込みを設け、テープには直線状の切り込みを設けてあるため、構成が複雑となり、その製造が面倒となる難点があった。

【0004】

また、前述の如きミシン目入り両面テープにあっては、両面糊がライナー紙に密着した状態でミシン目が両者を貫通して設けてあるため、手指によってミシン目部分を破断した時に、ミシン目状の切込線の間にある切残し部分が引き千切られるようになり、その際、この部分が若干伸びてミシン目状の切込線部分より突出するようになる。そのため、破断端部が綺麗に破断され難い難点や、破断端部の貼着力が低下して、接着強度が劣化する等の難点があった。加えて、被接着物の角部等に両面テープのミシン目部分が位置した時、ミシン目の切込線部分が開

いてその部分の接着強度が低下する虞れ等もあった。

【0005】

更に、前述の如きミシン目入り両面粘着テープにあっては、両面粘着テープの剥離紙にのみミシン目を設けてあるため、手指によってミシン目部分を破断した時に、両面粘着テープが綺麗に破断され難い難点があった。しかも、破断端部の貼着力が低下して、接着強度が劣化する虞れ等もあった。

【0006】

そして、前述の如き両面テープにあっては、剥離紙にはミシン目部を設け、両面粘着シートには直線状の切断部を設けてあるため、構成が複雑となり、その製造が面倒となる難点や、切断部で細かく切断されている両面粘着シートが剥離紙から簡単に離れてしまう難点等があった。加えて、被接着物の角部等に両面粘着シートの切断部が位置した時、切断部の間隔が開いてその部分の接着強度が低下する虞れ等もあった。

【0007】

【課題を解決するための手段】

そこで、本考案は、前述の如き難点等を解消して、貼着力や接着強度等を損なうことなく、簡単に、確実に、且つ綺麗に破断でき、しかも、構成が簡素で、製造し易く、量産に適し、低廉で、経済性の優れた両面テープを提供すべく考案されたもので、具体的には、表裏両面が粘着可能な粘着テープ基体1と、この粘着テープ基体1の表面に剥離可能に貼着される剥離テープ2とからなる両面テープに於いて、長手方向に沿って適宜間隔に配されると共に、幅方向に沿うような略ミシン目状の切込線3を、剥離テープ2及び粘着テープ基体1の同位置に夫々設け、剥離テープ2に設けられる切込線3aは、剥離テープ2を貫通するように形成し、粘着テープ基体1に設けられる切込線3bは、剥離テープ2がわから粘着テープ基体1の厚みの1～50%程度の深さとなるように形成する手段を採用した。

【0008】

【考案の実施の形態】

以下、本考案を図示例に基づいて説明する。

本考案の両面テープは、表裏両面が粘着可能な長尺帯状の粘着テープ基体 1 と、この粘着テープ基体 1 の表面に剥離可能に貼着される長尺帯状の剥離テープ 2 とからなる両面テープであって、長手方向に沿って適宜間隔に配されると共に、幅方向に沿うような略ミシン目状（破線状）の切込線 3 を、剥離テープ 2 及び粘着テープ基体 1 の同位置に夫々設けたものである。すなわち、手指によって任意の切込線 3 部分で両面テープを簡単に破断できるように構成してある。

【0009】

しかも、剥離テープ 2 に設けられる切込線 3 a は、剥離テープ 2 を貫通するように形成され、隣設する切込線 3 a の間には、切残部 4 a が設けられるようになる。

【0010】

また、粘着テープ基体 1 に設けられる切込線 3 b は、剥離テープ 2 がわから適宜深さに形成されると共に、裏面がわに切残部 4 c が設けられるように形成されている。尚、隣設する切込線 3 b の間には、切残部 4 b が設けられるようになる。すなわち、切込線 3 用の適宜切込刃を剥離テープ 2 がわから押し当てるだけで切込線 3 を簡単に設けられるように構成してある。しかも、任意の切込線 3 b 部分で、粘着テープ基体 1 を簡単に、且つ確実に破断できるように構成してある。

【0011】

加えて、粘着テープ基体 1 に設けられる切込線 3 b は、剥離テープ 2 がわから粘着テープ基体 1 の厚みの 1 ～ 50 % の深さとなるように形成されている。すなわち、手指によって切込線 3、3 a、3 b 部分を破断した時に、粘着テープ基体 1 の切込線 3 b 部分は、略直線的で綺麗な破断状態となるように構成されている。しかして、破断端部の貼着力が低下したり、接着強度が劣化したりすることがないように配慮されている。尚、切込線 3 b の底部形状は、図示例のように粘着テープ基体 1 裏面に対して略平行な直線状となるように形成したものでも良いし、山形状、円弧状、鋸刃状、その他適宜形状に形成できるものである。

【0012】

ところで、粘着テープ基体 1 の具体的構成、形状、寸法、材質、剥離テープ 2 の具体的構成、形状、寸法、材質、切込線 3、3 a、3 b の具体的構成、形状、

寸法、数、配設位置、切残部4 a、4 b、4 cの具体的構成、形状、寸法、数、配設位置等は、図示例のもの等に限定されることなく、適宜自由に設定、変更できるものである。

【0013】

【考案の効果】

従って、本考案の両面テープは、表裏両面が粘着可能な粘着テープ基体1と、この粘着テープ基体1の表面に剥離可能に貼着される剥離テープ2とからなる両面テープに於いて、長手方向に沿って適宜間隔に配されると共に、幅方向に沿うような略ミシン目状の切込線3を、剥離テープ2及び粘着テープ基体1の同位置に夫々設け、剥離テープ2に設けられる切込線3 aは、剥離テープ2を貫通するように形成し、粘着テープ基体1に設けられる切込線3 bは、剥離テープ2がわから粘着テープ基体1の厚みの1～50％程度の深さとなるように形成したので、手指によって任意の切込線3、3 a、3 b部分で両面テープを破断したときに、略直線的で綺麗な破断状態が得られるようになり、破断端部の貼着力や接着強度を損なう虞れの無い両面テープとなる。

また、任意の切込線3、3 a、3 b部分で、簡単に、且つ確実に、両面テープを破断できるようになる。

【0014】

特に、剥離テープ2に設けられる切込線3 aは、剥離テープ2を貫通するように形成し、粘着テープ基体1に設けられる切込線3 bは、剥離テープ2がわから粘着テープ基体1の厚みの1～50％程度の深さとなるように形成したので、適宜切込刃を剥離テープ2がわから押し当てただけで切込線3を簡単に設けられるようになり、構成が簡素で、製造し易く、量産に適し、低廉で、経済性の優れた両面テープを提供できるようになる。

加えて、被接着物の角部等に切込線3が位置した場合でも、その部分の接着強度が低下する虞れが無く、確実な接着力を発揮できるものとなる。